

# 倫 理

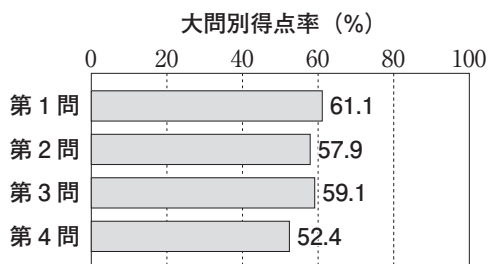
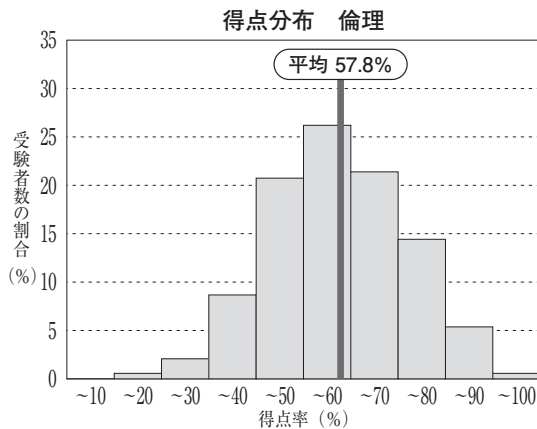
知識を得る学習を重点的に行った上で、過去問演習を行おう。

## I. 全体講評

今回の「全国統一高校生テスト 倫理」の受験学年の平均点は、57.8点であった。この結果は、同一形式、同一レベルで行われた「第3回8月センター試験本番レベル模試」の平均点(49.3点)を上回り、昨年の「全国統一高校生テスト 倫理」の受験学年の平均点(55.7点)とほぼ同じとなった。外部からの受験者が多く参加したことを踏まえても、平均点は順調に伸びていると言えよう。

大問別に見ると、第1問から第3問の得点率は60%前後となっており、日本思想分野までの学習はある程度進んでいることがうかがえる。源流思想分野をしっかりと理解した上で、西洋近現代思想分野の学習を進めてほしい。

来年1月のセンター試験本番まであと2か月余り。残された時間を有効に活用してほしい。



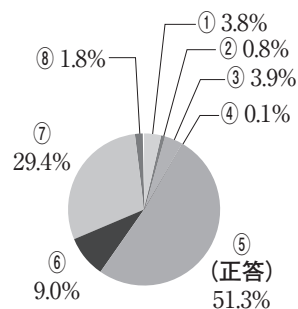
## II. 大問別分析

### 第1問 青年期・現代社会分野

青年期・現代社会分野であっても油断せず、知識を高めよう。

第1問の受験学年の得点率は61.1%。グラフや資料文の読解問題のような知識を不要とする問題の正答率は高かったが、ある程度学習を必要とする問題は正答率が低めとなった。問3 [3] はイを誤文と判断した受験者が多かった。アダム・スミスは、政治・経済でのキーワードは「自由放任」であるが、倫理ではそれに加えて「共感」もキーワードである。必ず覚えておこう。現代思想についての問題である問8 [8] では、4割近くの受験者が誤文の④を選択した。④はロックの社会契約説の説明であるからまったたくの外れであり、④を選択した受験者はこの機会に社会契約説の理解も深めたい。なお、②のコミュニタリアニズムは2016年度の本試験第1問問9 [9] で取り上げられている。出題される可能性が十分あるということを中心に刻もう。

### 問1 [1] 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。

3割弱の受験者が、空欄 a と c は正しい選択肢を選んだものの、空欄 b で誤った選択肢を選んでいいる。「機能」や「外部化」という用語に惑わされたかもしれないが、日本の家族のあり方の変遷を見る際に、これらの用語を外して考えることはできない。解説をよく読んでおくこと。

**第2問 源流思想分野**

横断的に問う問題形式に答えられるようになる。

第2問の受験学年の得点率は57.9%。問8[18]の正答率が約20%であり、得点率を大きく引き下げた。この問題は源流思想分野の思想家や哲学者を横断的に問うもので、選択肢3つのうち2つまでは正しく判断できている受験者は多かったが、3つすべての選択肢を正しく判断できなければ得点を得られない。この横断的に問うという問題形式は近年よく出題されている。正答するには広範な知識が要求されるので、最終的に答えられるレベルにまで到達できるように努めよう。また、問3[13]では、誤文の②を選択した受験者が3割以上いた。②は用語は正しいが内容が誤っている文章であり、うろ覚えの受験者が選択しやすい。用語だけを頭に詰め込むのではなく、内容を理解すること。

**第3問 日本思想分野**

日本思想分野の得点はまだまだ伸ばせる。

第3問の受験学年の得点率は59.1%。知識を問われる問題の正答率はおおむね40%台で、多くの受験者の学習進度は日本思想分野のまだ道半ばといったところのようである。ということは、日本思想分野の得点率はまだまだ伸ばせるということである。解説を読むなどして知識を固めること。

**第4問 西洋近現代思想分野**

哲学者や思想家の思想の内容を把握しよう。

第4問の受験学年の得点率は52.4%。正答率が20%台の問6[34]は、誤文の①を選択した受験者が4割を超えている。①はベンサム思想内容に踏み込んだ記述であり、「最大幸福」という用語だけ覚えている程度では正誤判断できない。また、問7[35]では誤文の①を選択した受験者が3割近くいた。「ダス・マン」という用語を見て即断して①を選択したものと思われる。哲学者や思想家の用語を記憶するのは当然として、その思想の内容を把握しなければ倫理の試験には太刀打ちできないと言えよう。

**Ⅲ. 学習アドバイス****◆インプットとアウトプットに励む。**

今回の結果を見ると、多くの受験者が倫理全範囲の学習を一通りは終えているように感じられる。2019年度のセンター試験本試験まであと2か月余りという今、行うべきことは、教科書や用語集を熟読して知識を獲得した上で、過去問演習を重ね、知識を完全に身につけ、得点力を上げることである。センター試験の倫理は、趣旨読解という国語のような問題があり、また選択肢の文章が長いことが多い。さらに、センター試験特有の文章構造や、キーワードの埋め込み方法があるので、一定の慣れが必要になる。そこで、過去問を解くことで自分の知識に不十分などところがあることが判明した場合、周辺事項との比較（例えば、国学なら古学や朱子学といった具合）をしながら不十分さを解消していこう。こうすることで自らの知識が有機的につながり、倫理の学習が完成するのである。

**◆次回の模試に向けて。**

12月に実施される次回の「最終12月センター試験本番レベル模試」は、本試験まで1か月を切った時期に行われる、まさに最終模試である。本試験に臨むのと同じ気持ちで、最後の1秒まで集中してほしい。